

## 子どもの心に環境という木を植樹

どんぐり1000年の森植樹会

身近な環境づくりを通して自然の大切さを学んでもらおうと、どんぐり1000年の森植樹会が3月20日、山之口町青井岳国有林で行われました。平成9年に始まったどんぐりの森づくりも今年で15年目。照葉樹の森を再生しようと集まった約620人の参加者らは、植樹指導を受けたあと、イチイガシやアラカシなど1万4,500本の苗を植樹しました。祖父母とともに参加した今市あいりちゃん(志布市、4歳)は「どんぐりの木が大きく育ってほしい」と願いを込めて植樹していました。



## W杯のピッチを夢見て

FC東京サッカークリニック

3月21日高城運動公園多目的広場でFC東京コーチ陣によるサッカークリニックが開催されました。例年、キャンプ期間中に開催されている同クリニック。今年は新燃岳の噴火の影響でキャンプ自体が中止になり、開催が危ぶまれましたが、FC東京側の好意により実現。市内外から17チーム263人が参加し、プロのコーチの指導を受けました。当日は、途中から冷たい雨が降るあいにくの天気でしたが、参加者らは元気にパスの練習やミニゲームなどに汗を流していました。



## たくさんの福を呼び込んで

さくら福男・福女

桜並木を駆け抜け、母智丘神社の本殿に一番にたどり着いた人を今年の福男と福女に決めるさくら福男・福女が3月26日、桜まつり会場で開催されました。今年は市内外から13歳〜58歳の男性26人、女性20人が参加。桜並木を抜け290段の石段を上がる約2キロの過酷なコースで一番福を目指しました。2回目の参加で3位に入った佐藤健太さん(大宰府市)は「昨年より順位を上げられて良かった。来年こそは福男を目指したい」と早くも来年のレースへの意気込みを見せていました。



## 無心で挑む真剣なまなざし

全国弓道大会

全国一の竹弓の生産量を誇る「日本一の弓のまち都城」をPRしようとする都城弓まつり全国弓道大会が3月26日と27日の2日間、早水公園体育文化センターで開催されました。国内最大規模の大会とあって全国から2404人、740チームが参加。勝敗は4射を行い28秒離れた的的中した本数で決まります。選手らは、1射に集中し競技に挑んでいました。杉安里菜さん(鹿児島市)は「最初の2本は外したけど、気持ち切り替えたおかげで最後は命中しました」と笑顔で答えていました。



## 春風に乗って心ウキウキ

さくらフェスタ高城

降灰で灰色に染まった盆地に春の訪れを告げるさくらフェスタ高城が3月27日、観音池公園で開催されました。多くの家族連れらがステージイベントや地場産品を楽しもうと来場。花の女王による花の苗配布や町内の小中学生によるブラスバンド演奏などが行われたほか、東日本大震災で被災した人たちの復興に役立ててもらおうと、チャリティー抽選会も行われました。スケッチ大会に参加した安藤美怜ちゃん(三股町)は「家族とさくら、太陽が上手にかけた」と笑顔で話していました。



## 響きわたる力強い掛け声

東霧島神社春季例大祭

五穀豊穡を祈願する春季例大祭が3月31日、東霧島神社(高崎町)で開催されました。薩摩藩の時代から続く勇敢な浜下り。今年の当番となった江平地区の住民らが島津家久から寄進されたみこしを担ぎ、境内を練り歩きました。また、同会場内ではグラウンドゴルフや弓道大会、太鼓の披露なども行われ、来場者の目を楽しませていました。友達と訪れていたラックラン・ピットさん(オーストラリア)は「子どもたちの元気な声にパワーをもらいました」と話していました。



## あなたの子育てをお手伝い

ファミリースポーツセンター開所式

子育ての支援を受けたい人と子育ての支援を行いたい人が会員となって相互に助け合うファミリースポーツセンターの開所式が4月1日、総合福祉会館で行われました。3月から募集も始まり、すでに85人が会員として登録。開所に当たり長峯市長が「働くお母さんの手助けになるなど、子育ての一つの柱となつてほしい」とあいさつしました。開所式の後には、オープンセレモニーも行われ、記念演奏や記念講演などに約80人が参加して、同センターのオープンを祝いました。



## 後世へ引き継ぐ平和への思い

都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭

特別攻撃隊戦没者慰霊祭が4月6日、都島公園でしめやかに行われ、遺族や戦友、関係者ら約330人が、戦没者の冥福を祈りました。太平洋戦争末期、都城西・東飛行場から飛び立ち、帰らぬ人となった特攻隊員らを悼む同慰霊祭。慰霊碑を建立した昭和52年から始まり35回目を迎えました。遺族を代表してあいさつした末永圭次さん(山口県)は「今日の日本の平和は多くの特攻隊員などの犠牲の上にあります。今後も平和の尊さを次の世代に伝えていきたい」と平和への思いを新たにしていました。



# 人の風景



「みやぎの匠」に選ばれた

宇都野うつの 暁あきらさん

**華** 美な装飾にとらわれず、普段の生活の中にもこそ見いだされる「用即美」をテーマに陶芸に取り組む都城焼窯元霧島工房。

その代表を務めるのが宇都野暁さん（吉之元町・66歳）です。

宇都野さんは、昭和49年、父新太郎さんが郡元町に都城焼の窯元を開いたのをきっかけに、それまで勤めていたデパートを退職し、陶芸の道に入りました。新太郎さんは陶芸に造詣が深く、豊富な知識と経験から粘土や釉薬を研究し、都城焼の基礎を築きました。

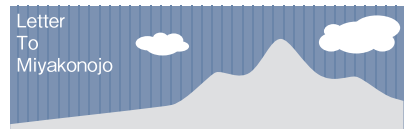
昭和53年に新太郎さんが引退すると、その後を引き継ぎました。「陶芸で何か地域に貢献できないか」との思いから敬老の日に「長寿湯呑み」を贈る取り組みをこの時から始め、今日に至るまで続けています。

平成11年からは現在の吉之元町に工房を移し、地域の商工業者などと協力してスタンプリヤーを開催するなど地域振興にも貢献。ま

た、後進の育成に努める傍ら、市内の小学生向けの陶芸教室を開催するなど陶芸の普及にも力を入れています。そのような実績が認められ今年3月、優秀な技術を持つ工芸品制作者として県から「みやぎの匠」に選ばれました。

今年1月26日に発生した300年ぶりともいわれる新燃岳の大噴火。この歴史的な事件を後世に伝えたいとの思いから、火山灰の有効利用にも挑戦。住民の生活ばかりか、観光産業までもに多大な影響を与えた厄介者は、宇都野さんの巧みな技で、その成分である鉄分がゴマ状の模様となり、味わい深い湯呑みなどの商品に活用されました。

このところの不況に加え、県内では昨年から災難が続く状況に「暗い話題ばかりで沈みがちな西岳地区を少しでも明るくしたい」と、決意も新たに今日もろくろを向き合います。



# 都城讃歌

【今出来ること、今しか出来ないこと】

徳丸 信代さん



とくまる のぶよ  
徳丸 信代

◎プロフィール  
昭和57年6月23日山之口町生まれ。  
宮崎日本大学高等学校→鹿屋体育大学→就職  
→2008年ビーチバレーを始める。  
「Athleteyell」所属

「もうやらない」と思って、大学卒業後は関西のスポーツクラブに就職しました。実業団でバレーボールをしている仲間がいて近くの大会は応援に行っていました。見てみると、一生懸命にやっている姿、それにガッツポーズ。みんなとてもキラキラしていて「私ももう一度コートに立ちたい！」そう思って出会ったのが『ビーチバレー』やるからには、より上を目指したいと思ってやっています。

しかし、現状は大会参加に必要な経費は全て実費。仕事をしながらの週末プレイヤー。苦しい時もあります。これまでご指導を頂いた先生方や、支えてくださった方、そして今でも応援していただいている皆さんにプレーをみていただき、恩返ししたい思いがエネルギーになっています。

ただ夢を追いかけただけでは追いつかない。夢には賞味期限があります。今年は来年を決める年だと確信しています。今年6月3日～5日に行われますJBVジャパンツアー霧島ファクトリーに都城の皆様が応援に来ていただけるように試合出場権を取得したいと思います。

沢山の方に勇氣、元氣、感動を与えられる様これからも努力して行きます。

過去を活かして、未来の為に、今を生きる。

## 学校へ行こう

夏尾中学校

夏尾町6673番地 ☎33-1600



◎学校のシンボル

「運動場から見える霧島山」

私たちは、毎日霧島山に見守られながら学校生活を送っています。霧島山は四季折々の姿をみせてくれます。

### 「スローガンを胸に」

夏尾中学校生徒会

私たちの夏尾中学校は、霧島山を仰ぐ場所に位置しています。創立50周年を迎えようとしている自然あふれる学校で、全校生徒9人が日々楽しい学校生活を送っています。

本校の特徴は、ふれあいグラウンドゴルフ大会や高齢者宅訪問などを通して、地域交流を深めたり、会話を楽しんだりして、充実した時間を過ごしています。夏尾中の昨年度のスローガンは、「夢に向かって、己の道を駆け抜ける。全てを力に全力前進」でした。全校生徒で意見を出し合って作ったこのスロー

ガンには、自分の弱いところを克服し、壁を乗り越える力をつけ、自信をつけていきたいという意味が込められています。このスローガンを掲げたことで、全校生徒が気持ちを切り替え、自分の夢を見つけそれに向かって努力ができるようになりました。

昨年、12月に生徒会役員に代わり、旧生徒会役員のようにまだ十分にできない部分もありますが、今年度も新たにスローガンを掲げ、全校生徒の気持ちを一つにし、先輩方が築き上げた伝統を受け継いで、よりよい学校を目指していきたいです。